



「さぶちゃん」原画プレゼントありがとう
by みかん（写真提供・佐伯泰英事務所）

佐伯通信

2020年3月(令和2)
第51号
発行
佐伯泰英事務所
担当／光文社
禁・無断転載

千支頭は子

何年ぶりの風邪を引いた。「居眠り磐音」決定版の刊行が半ばに差し掛かり、年の瀬とあってつい気を抜いたことが原因であらう。元日は飼った犬の散歩に行けないほど、咳、鼻水、悪寒、微熱などあらゆる症状に見舞われ、新年を祝うどころではない。散歩は娘が行ったとか。覚えていない。咳

には蜂蜜がいいというので、蜂蜜をなめて時を過ごした。文春文庫の企画でシリーズの主人公を選手に立てて年賀状を創ってもらった。小籾次が棒高跳び、磐音がハンマー投げの選手に扮している。このアイデアは1964年の東京オリンピックで撮影助手として参加(?)した日芸映画学科時代の私の体験がもとになっている。観客席には、千支頭の鼠が勢ぞろいだ。愛らしい挿画は横田美砂緒さんの手による。だが、鼠のなかに異分子が混じっている。この年賀状をお持ちの読者諸氏、眼鏡を手に

佐伯泰英／近刊のお知らせ

7月
8日

6月
10日

4月
8日

《文春文庫》
新・酔いどれ小籾次
『鼠異聞』(仮)上下
「佐伯通信」第52号が入ります。(初版の初回出荷分のみ挟み込み)
※発売日は予定です。

《光文社文庫》
『新酒番船』(仮)

《文春文庫》
新・居眠り磐音
『おこん春暦』

《文春文庫》
居眠り磐音
【決定版】

4月8日	㊤『照葉ノ露』	
5月8日	㊤『冬桜ノ雀』	㊦『佗助ノ白』
6月10日	㊧『更衣ノ鷹』上	㊨『更衣ノ鷹』下
7月8日	㊩『孤愁ノ春』	㊪『尾張ノ夏』

〈大河シリーズ〉の行方

※光文社 文庫編集部
「新・吉原裏同心抄」「吉原裏同心抄」
「吉原裏同心」「夏目影二部始末旅」担当

小口 稔

みなさま、『新・吉原裏同心抄 赤い雨』をお読みいただきありがとうございます。「新・吉原裏同心抄」も2作目。京に修業に赴いた幹次郎が対峙する祇園を揺るがす陰謀、その一方で吉原にも強大な力を持つ新たな敵が暗躍……と、二つの都での物語はますます目が離せない展開となってまいりました。

ところで、昨年末に『スター・ウォーズ／スカイウォーカーの夜明け』が公開されました。このエピソードIXが大河シリーズの完結編。中身については賛否両論あるようですが、42年という長きにわたって続いた作品ですし、個人的には、いろいろと難しい制約がある中でよくまとめたものだ、と感慨深く鑑賞いたしました。

長く続くシリーズほど、どのような結末を迎えるか気になりますよね。佐伯先生のシリーズの多くも平成の終わりに次々と完結いたしました。「吉原裏同心」から続いてきたこのシリーズも完結に向けての展開が感じられる一面もあります。これからの一作一作を、みなさまとともに見守ってまいりたいと思います。

その一方で特報です。「出版社からのお知らせ」に告知いたしましたが、6月に書き下ろし最新作『新酒番船』(仮)が刊行されます。大興奮の海洋冒険時代劇、ぜひともご期待ください！

近刊・作品情報はこちらでもチェックできます。
<http://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト 検索

2020年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が(株)文藝春秋、(株)光文社の協力のもと発行します。

とくと観客席をぐ貫くださ
い。カメラを構えた〇〇と
横田画伯と佐伯に共通する
愛〇が描かれている。シン
トは「さぶちゃん」と「み
かん」。そんなわけで遊び
心一杯の年賀状になった。
ところで「酔いどれ小籾
次」はこのところ『鼠草紙』
に始まり、モティーフが鼠
づくしだ。横田さん、この
鼠づくし、まだ終わります
んよ。七月のタイトルは
『鼠異聞』(仮) 上下巻です。
風邪の余波か、想像力と集
中力がもとへ戻りません。
「佐伯通信」第52号は7月8
日刊行予定の『鼠異聞』(仮・
文春文庫)に入ります。

4月8日
刊行
(予定)

書き下ろし新作

「新・居眠り磐音」第4弾！

おこん春暦

おこん14歳。金兵衛と二人暮らしの長屋に訳ありの浪人・
曾我蔵之助夫婦が流れ着く。女房の達子は、母親を亡くした
ばかりのおこんに姉のように接してくれて――。

出版社からのお知らせ ● 文春文庫

6月10日刊行
(予定)

待望の書き下ろし最新作！

新酒番船

しん しゅ ばん ふね (仮)

江戸へ新酒を届ける競争に参加した若者を描く青春時代劇誕生！

出版社からのお知らせ 光文社文庫